

## 区西南部地域リハビリテーション支援センター 渋谷区事例検討研修会 報告書

開催日時：2018年10月11日（木）19：00～20：30

場 所：渋谷区文化総合センター大和田 2階

研修テーマ：「人生の最終段階を地域医療チームで支えるには」

研修報告：

終末期の事例を元に、「最期までその人らしさを支えるために専門職として、医療チームとして何が出来るか」をグループで話し合いました。グループワーク後、各グループでの話し合い内容を発表していただきましたが、どのグループも活動量低下や食べることをどう考え何が出来るか、介入の時期や関わり方をどう考えるかなど多様な視点とテーマで討議を深められたようでした。最後に渋谷区医師会副会長酒井先生、訪問看護ステーション連絡協議会水留会長、渋谷区ケアマネジャー連絡協議会指田会長に講評を頂き、終了となりました。

今回、渋谷区訪問看護ステーション連絡協議会と初めての合同開催となりましたが、合同開催により、多職種の参加を得ることが出来、専門職による視点の違いや、地域でも多職種チームで関わることの重要性に改めて気づく場を提供できた研修となりました。

### ○研修会風景

#### <事例説明>



#### <グループワーク>



#### <グループ発表>



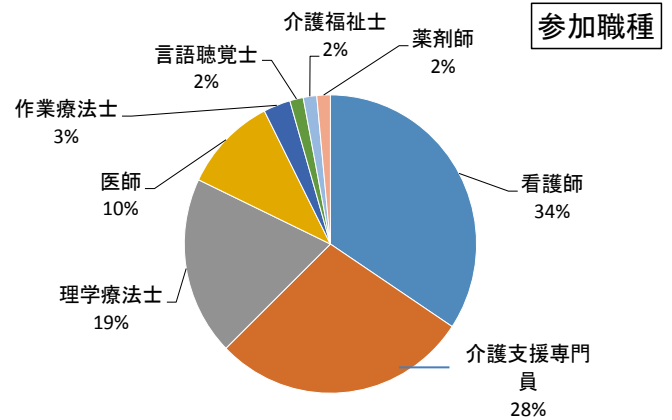
#### <講評>



## <アンケート結果>

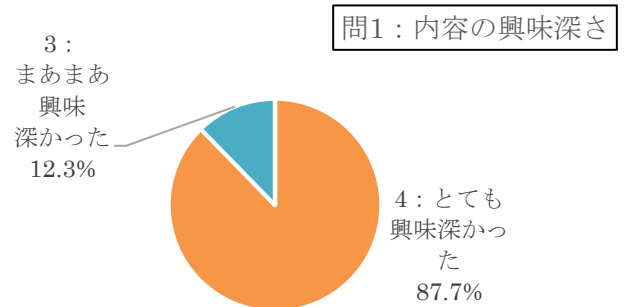
参加人数 67 名、アンケート回答数 65 名（回収率 97.0%）

参加職種	人数	割合
看護師	23	34.3%
介護支援専門員	19	28.4%
理学療法士	13	19.4%
医師	7	10.4%
作業療法士	2	3.0%
言語聴覚士	1	1.5%
介護福祉士	1	1.5%
薬剤師	1	1.5%
計	67	100.0%



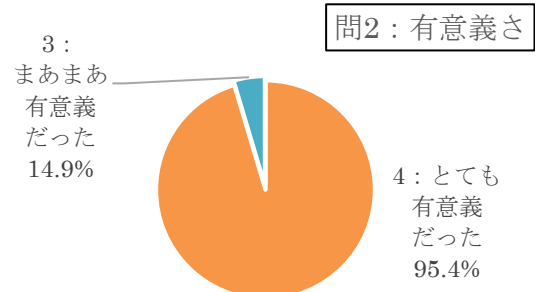
問 1. 内容は興味深いものでしたか？

項目	人数	割合
4:とても興味深かった	57	87.7%
3:まあまあ興味深かった	8	12.3%
2:あまり興味深くなかった	0	0.0%
1:まったく興味深くなかった	0	0.0%
0:未記入	0	0.0%
総計	65	100.0%



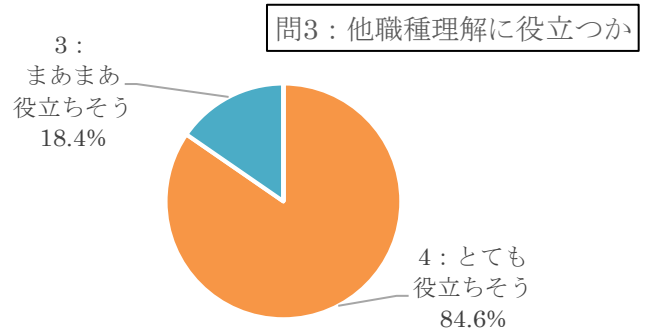
問 2. 他職種とのディスカッションは有意義でしたか？

項目	人数	割合
4:とても有意義だった	62	95.4%
3:まあまあ有意義だった	3	4.6%
2:あまり有意義ではなかった	0	0.0%
1:全く有意義ではなかった	0	0.0%
0:未記入	0	0.0%
総計	65	100.0%



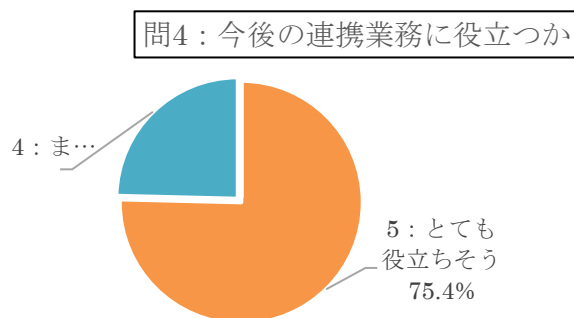
問 3. 他職種理解に役立ちましたか？

項目	人数	割合
4:とても役立ちそう	55	84.6%
3:まあまあ役立ちそう	10	15.4%
2:あまり役立たない	0	0.0%
1:まったく役立たない	0	0.0%
0:未記入	0	0.0%
総計	65	100.0%



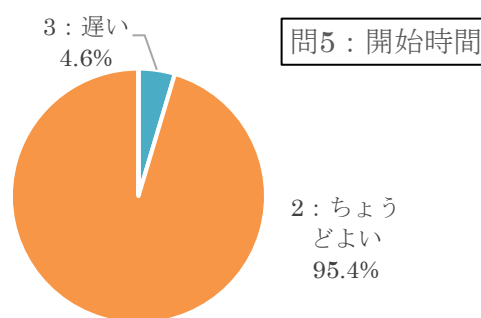
問 4. 今後の連携業務に役立ちそうですか？

項目	人数	割合
5:とても役立ちそう	49	75.4%
4:まあまあ役立ちそう	16	24.6%
2:あまり役立たない	0	0.0%
1:まったく役立たない	0	0.0%
0:未記入	0	0.0%
総計	65	100.0%



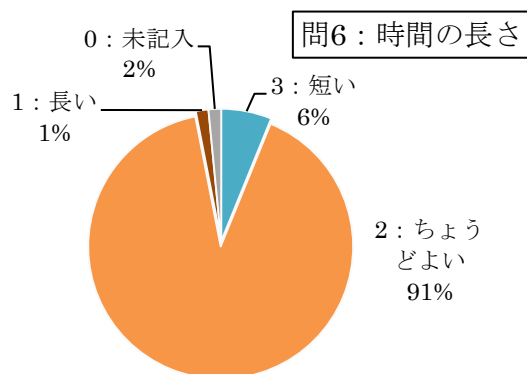
問 5. 研修時間は如何ですか？

項目	人数	割合
3:遅い	3	4.6%
2:ちょうどよい	62	95.4%
1:早い	0	0.0%
0:未記入	0	0.0%
総計	65	100.0%



問 6. 研修時間は如何ですか？

項目	人数	割合
3:短い	4	6.2%
2:ちょうどよい	59	90.8%
1:長い	1	1.5%
0:未記入	1	1.5%
総計	65	100.0%



問 7. 今回の研修で新たな気づきや学びとなった事を教えてください。

1. 他職種の方と連携し、お互いの必要性、出来ることなどを知ることが出来た。
2. 今回の研修の事例は日頃よく考える事が多い内容であり、他の職種の方のお話を聞いた事で異なる視点も参考になった。
3. 大変勉強になりました。
4. 専門職としてのアプローチがあり、多角的な視点がある事を再確認出来た。CF は折々で開き、意向を確認する事の大切さを認識した。生きがい、終わり方。
5. 多職種の意見が聞いたこと。
6. 改めて生きる事、生きがい等、本人の意思決定を考えさせられました。
7. 病院でのリハビリと自宅での訪看のリハビリの違いについて学び、リハビリテーションは本人の気持ちの確認が大切だと思う。出来ることある事。
8. グループ内で色々な考えが出て皆さん素晴らしいなと思いました。他のグループについても素晴らしいと思いました。

問7. 今回の研修で新たな気づきや学びとなった事を教えてください。(続き)

9. ICFの重要性。本人、Faのneedを聞きだす事。
10. 活動量の低下は食べれなくなることに起因しており、一緒に食事を共にするというだけでもいいのではないかと意見が新鮮でした。
11. 変化していくリハビリの目的にそってのケアも変化。
12. 多職種の考え方が色々あり参考になりました。
13. 普段関わりが少ないPTさんに話をたくさん聞いた。医師やケアマネなどチームでサポートしていく事が必要。
14. 希望を場面で考えていく事が大切であること。
15. 皆さん同じような認識視点を心得ていると感じ安心しました。後輩育成を頑張ろうと思いました。
16. PT・OTさんと意見交換が出来て良かった。
17. 多くの職種が密に連携を取っていくべきだと感じました。
18. 私自身、訪問経験が浅い中で、終末期に係る上での視点を沢山学ぶことができました。
19. 在宅医療のリハビリの関わり方など勉強になりました。
20. 時間によって関わる内容が違ってくことに気付いた。体力温存する為の福祉用具導入。
21. 動きたいという思いを支えるにも、可能な限り負担の少ない動き方や量(食事量との兼ね合いでアセスメントしながら)の提案、福祉用具の選択等、他職種の視点から気付かされることが多かった。
22. 癌終末期での在宅リハの可能性を具体的なアイデアを出しながら学ぶことが出来た。
23. 各職種目線での意見を聞くことが出来た。改めて他職種との連携・チーム医療の大切さを実感した。
24. 地域リハビリテーションの情報共有の難しさを知りました。具体的な評価尺度があれば共有しやすいと感じました。
25. もしかしてチーム医療をしていない病院も多いのかも。
26. 自分と違う職種の方々に対して、自分が何を出来るかを説明したり、違う視点から意見を聞くことが連携を取る上で大切と改めて感じた。
27. 他業種の視点からの意見を聞き参考になりました。
28. 他職種がどんな関わり方をしているか勉強になりました。改めて本人に合わせて行なうことが大切であると思いました。
29. 他職種間のイメージにギャップがあった。このギャップを埋めていきたいと気付かされた。
30. 色々な職種の方のお話を聞いて色々なアプローチの仕方があるので参考になった。
31. その時に担当している当事者だと気付かない事も第三者だと気付くこともある。職場が違えば気付くこともあるので意見交換する。できる場面があると嬉しい。
32. 「意見決定は誰がするのか？」酒井先生のお話が一番印象深かったです。病院のDr.との顔の見える関係を作れるといいです。
33. 職種の異なる方の意見を聞く事、また同職種でも見方や違った意見を聞く事で今後の自分の考え方の見直しにもなりました。
34. 勉強不足。とても勉強になりました。
35. 医療系(医師・看護師・理学療法士)の方が多く、どのような視点を持っているのか、(ターミナルの考え方、捉え方)を知ることが出来た。目標ニーズに対するアプローチ方法を知ることが出来た。
36. 病院の職員の意見が非常に参考になりました。在宅と病院との認識の違いが大きいと改めて感じました。
37. 終末期の患者にも本人の希望があればリハビリを導入してもよい。
38. 今後も在宅、施設、病院関わらず多職種での研修を是非受けたいと思います。

問 8. 今後実施して欲しい研修会内容があれば教えてください。

1. 独居の方に対するサポートについて。
2. ACP の研修はまた違う形であると良い。高次脳機能障害へのアプローチについて
3. 同じように事例検討会。
4. 地域ケアシステムについて。
5. 薬剤師がアプローチできる、またはアプローチすべき事例の検討会があればいいなと思います。
6. 医師との交流の機会があればよい。
7. ケアカンファレンスのあり方。お互いが求めることなど。時間の使い方、内容など。
8. 認知症の関わり。循環器疾患の在宅管理。
9. Biopsychosocial モデルのような複雑事例に対する多職種での検討会。
10. 老老認識のケースについて他職種でのアプローチ。
11. 各職種の最近変わった制度や使えるようになったもの。資源のトピックのアナウンスを短時間で入れる。
12. 在宅医療、終末期の方のサービスをどうするか。家族支援、パーキンソン、リウマチ、認知症の方へのアプローチは？
13. 今回と似たような内容で情報交換会をして頂きたい。
14. 病院の MSW や Ns.・Dr.との勉強会。
15. 事例検討会をまたお願いいたします。

以上